

京都精神保健福祉士協会

# きょうと通信

NO. 72



2009年8月発行

事務局:医療法人栄仁会 宇治おうばく病院内

〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割 32-1

TEL 0774-32-8399(直)

FAX 0774-32-8399(直)

e-mail [office@kyo-psw.org](mailto:office@kyo-psw.org)

HP <http://www.kyo-psw.org/>

## 【9月例会のご案内】

日 時:2009年9月4日(金) 19:00~21:15

会 場:キャンパスプラザ京都 9階 第4講義室

テーマ:京都精神保健福祉士協会の“いま これまでとこれから”

①協会員の現況~2008年度会員労働実態調査報告から

②協会のこれまで~協会ガイドによる京都協会歴史巡り

カニ鍋 → 京都精神医学ソーシャルワーカー連絡協議会 → 「かもがわ」

→ 国家資格 → 社会的責務 → 支部化検討 etc

③協会のこれから~会員みんなでつむぐ京都協会の歴史

ガイド:上田 正人さん(医療法人稲門会 岩倉病院 デイケアセンター)

西村 睦美さん(財団法人 川越病院 医療福祉相談室)

進行役:物 尚子さん(医療法人 高木神経科医院 デイケアおいけ)

今回の例会は、京都精神保健福祉士協会の現在・過去・未来について、皆さんと語り合う機会にしたいと企画しました。

まず、2008年度労働実態調査の報告を受けて、会員の置かれている状況について共有します。そして、二人の協会ガイドの案内のもと、京都協会の歴史を巡ります。名所旧跡ならぬ協会重要キーワードをたどります。

京都精神保健福祉士協会は、「2001年4月」に前身組織であった「京都精神医学ソーシャルワーカー連絡協議会」を発展させ設立されました。もともと京都で活動するPSWが横のつながりを求めて「カニ鍋」・・・数年にわたる議論をへて2001年の当協会設立に至ったのです。新しい組織となって大きく変化したことは、この会が、同じPSWとしてのつながりを築くこと、自己研鑽や資質向上のための研修の機会をもつことに加えて、「専門職能団体」として期待される意思を社会的に発信していくことでした・・・

そして、現在、京都協会は会員みなさんにとってどんな存在でしょうか。京都協会が会員一人ひとりの専門職としての実践を支える場となるために「協会に求めるもの」「協

会がしていったらよいと思うこと」「社会的責務とは」「精神保健福祉士としてのわたしとは」などなどのキーワードをたくさんの会員の方々と語りあいたいと思います。協会は会員一人ひとりの参加によって成り立っています。協会の未来をあなたとわたしでつくりませんか！と、はりきっていますが・・・さてどうなることやら・・・

皆様ふるってご参加ください。

\*9 例会は総会で話し合う予定だった「意見」をきっかけに企画されました。

(9 月例会企画運営チーム)

## 【第9回（2009 年度）総会報告】

～会長あいさつ～

会長 中瀬 慶子

この会も発足して 9 年目を迎えることになりました。本当に月日の経つ早さを実感しています。

私がこの会の前の連絡協議会からこの会を発足して、第 1 期から会長をつとめさせていただいてから早、8 年が過ぎました。当初は 1 期だけのつもりでお引き受けしたのですが 8 年にもなってしまいました。この間、会の運営が順調に遂行できた訳ではありません。会を重ねるごとに会則や規則等に当初の作成したものでは対応できず、総会毎に変更を繰り返してきたこと、会員が発足当初は 70 名余りだったのが、現在 300 名を超える大所帯となり、また、それぞれの会員の活動する分野も発足当初に比べ多方面の領域に大幅に拡大してきました。この会が皆様の期待に応えるため、努力を重ねて参ったつもりですが、会運営に苦慮することもありました。力不足の私が今日まで何とか努めることができましたのは役員を始め会員の皆様のご協力があったることと感謝申し上げます。

さて、社会的には何よりも大きな動きとして、今まで私たちのバックボーンは「精神保健福祉法」に基づいて対応してきましたが、平成 18 年の「障害者自立支援法」の成立に伴い大きな変革を迫られることになり、どの現場も大きな不安と戸惑いを感じたものでした。そして、いまだに多くの現場でその移行に悩んでおられるところです。また、ここ数年の我々を取り巻く医療・保健・福祉の情勢は、年間 3 万人を超える自殺者や若い人の「社会的引きこもり」の対策や、私たちの支援に大きな期待を寄せられている 7 万人を超える「社会的入院患者」の地域移行の推進など複雑多様化してきています。このような中で、年々当協会の果たす役割は各方面から期待や関心も高まって来ています。今年は、役員の改選に当たる年でもあり、今回の議案の中でも議事としてあげておりますが、組織や役員について変更など提示させていただきますが、今後は新しい執行部のもとで当協会の今後の活動は、当協会の会則の目的に則って、精神障害者や家族を始め関係者から信頼される団体として努めていければと思います。

また、既に御案内をしていますが、本日は当協会の総会の後、日本精神保健福祉士協会京都府支部と当協会との共催で日本精神保健福祉士協会常任理事をされている田村綾子さんをお迎えして「わたしたちの専門性とは～かわりの中からみえてくるもの～」というテーマでご講演頂くことになっています。

最後に、会員の皆様一人一人のお力をいただき京都精神保健福祉士協会の発展向上のため、これまで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、簡単ですが私の挨拶とさせていただきます。

### 【第9回（2009年度）総会概要報告】

|        |                                                              |
|--------|--------------------------------------------------------------|
| 日      | 時：2009年6月7日（日）                                               |
| 会      | 場：京都市勧業館「みやこめっせ」 大会議室 10：45～13：25                            |
| 司会進行   | ：小野紀代子（役員）                                                   |
| 議      | 長：花房諒（ジョイント・ほっと）                                             |
| 書      | 記：日置周平（ふくしほうむびあ） 美保忍（宇治おうばく病院）                               |
| 総会運営委員 | ：熊取谷晶（委員長・役員） 池田晃子（すぎなハウス） 井上康代（宇治おうばく病院） 下村洋介（役員） 松田真生子（役員） |
| 総会成立状況 | ：議決権有会員 304 名（総数 312 名）出席者 200 名（会場 71 名・委任状 129 名）          |
| 成立     |                                                              |
| 傍聴者    | ：5 名（議決権無会員 2 名・当日入会申請者 3 名）                                 |

会長あいさつの後、議長、書記の選出、総会運営委員の紹介、総会成立が確認され議事に入った。

### 【議事】

- 第1号議案「2008年度事業報告」 報告）佐藤副会長 （採決）出席会員 206 名（会場 77 名・委任状 129 名）反対 0 名、保留 0 名、賛成 206 名 承認
- 第2号議案「2008年度会計報告及び会計監査報告」  
報告）斉藤担当役員・家原会計監査 （採決）拍手賛成多数 承認
- 第3号議案「規約改正について」  
提案）姫野担当役員 採決 反対 1・保留 0・賛成
- 第4号議案「倫理委員会規則改正について」  
提案）姫野担当役員 （採決）拍手賛成多数 承認
- 第5号議案「役員選出規則改正について」  
提案）姫野担当役員（採決）拍手賛成多数 承認
- 第6号議案「懲戒処分規則について」  
提案）亀海担当役員 （採決）出席者 209 名（会場 80 名・委任状 129 名） 反対 1 名、保留 0 名、賛成 208 名 承認
- 第7号議案「倫理委員選出について」  
提案）中瀬会長 （採決）拍手賛成多数 承認
- 第8号議案「組織体制案について」  
提案）佐藤副会長 （採決）拍手賛成多数 承認
- 第9号議案「2009年度・2010年度役員選出について」  
報告）柏木直子選挙管理委員 （採決）拍手賛成多数 承認
- 第10号議案「2009年度事業計画（案）」  
提案）前田新副会長 （採決）出席者 208 名（会場 79 名・委任状 129 名）反対 1 名 保留 0 名、賛成 207 名 承認
- 第11号議案「2009年度予算（案）」  
提案）岡島担当役員 （採決）拍手賛成多数 承認
- 以上、すべての議案が承認されました。

## ■報告および質疑概要

### □第1号議案

【補足】(佐藤：役員) 第4回(10月)例会の通信への報告が遅れたことについて、お詫びとその経緯が報告された。講師の表現に、うつ病や、当事者や家族、精神保健福祉士に対する無理解で不適切なものがあつた。当日参加した役員で訂正を求める行動をとるべきであつたが、直接ふれることができないまま例会を終えてしまった。その後役員会でこのままにしてはいけなと、当日の発言への抗議を含めた手紙を送つたが、講師からは講義の内容を理解していない、指摘したことについて証拠があるのかといった返信を受けた。手紙のやりとりを続けたが平行線が続き、この件にふれた例会報告についても了解を得られなかつた。打開策として会長が連絡し、例会報告については通信に掲載した内容で了解を得、収束した。役員会では、この件についての詳細な報告はこの総会で行うこととし、今後は、講師選定の際に事前にその講師の適切性について情報収集を十分に行うこと、講師との打ち合わせの際等に講義について懐疑的な状況が予測される際は役員会で検討の上打ち切ること、講演当日に表現や内容等に疑義を感じた場合は複数役員で検討してその場で異議を申し立てること、例会については講師の了解のうえ録音をするなどしていくこととしたとのこと。

【質疑】(野本：あゆみ舎) 「第4回(10月例会)について」うつ病その他のことについて無理解、差別的な発言があつたとのこと。国会でうつ病に対し、厳しい無理解な発言をしたと障害者や関係団体が抗議声明をだした。精神保健福祉士の倫理、価値にかかわること、曖昧にしてはいけな問題であり、私たちの仕事はそういったところで、しっかりと抗議をしていく厳しさが必要だと思う。役員も悩んだのだろうが、会員全体で考える必要があつたのではないかな。今日初めて報告を受けショックだ。通信でも報告がなく、切迫感が感じられなかつた。さらに、「とりくみ」という言葉を使用しているが、協会の活動は主体的とはいえないように思うので適当ではないと思う。

(物・月川・佐藤：役員) 通信に掲載している役員会報告では、議論していることについてはふれている。通信で経過報告するには、相手のあることでもあり、非常に微妙な問題も含んでいる。文面から誤解を生じる可能性もあり、問題をこじらせたり伝えきれなかつたりすることが考えられたので、この総会で報告することが最良だと判断した。また、録音しておらず、メモでの記録しかなく事実としてあげられなかつたこともある。

(保田：岩倉病院) 例会に参加していたが、講師の話をうなづいてきいていたわけではなく、質問はあがつたしグループワークもありその場では共有している。その後の役員の対応を初めてきき、そこまでしたのかとむしろほつとした。どうしてこの講師を選んだのかと思う健康概念だつた。例会の雰囲気を知っていただこうと発言した。

(野本) 役員だけの問題ではない、役員が抱え込まないで、いかに分かち合うかということが一番大事ではないかと思う。また、総会で報告されるなら重要な報告があると案内すべきだ。この人は大丈夫だと思つていても、誰がどんな発言をするかはわからない。あらかじめ防ぐことは無理だろう。何が起つても対応できる背骨、みんなであつめていくことが大切だと思う。

□第2号議案【会計監査報告】(家原会計監査) 適正に処理されていること、事務処理の効率化をはかるために費目の見直しをしてはどうかとの助言をした。

□報告「会員の労働実態調査について」 岡田（立命館大学）調査担当より、概要が報告された。調査結果の全容については、報告会もしくは文書にてあらためて報告する。

#### □第 6 号議案

【質疑】（野本：あゆみ舎） 日本精神保健福祉士協会（以下、日本協会）の倫理綱領を採択していることは理解しているが、京都精神保健福祉士協会（以下、京都協会）と日本協会との判断が一致しないこともあるだろう。懲戒処分規則（案）第 3 条は「日本協会苦情処理規程に拠って処分し・・・」とあり、主体が日本協会にある。現場は京都であるのだからズレが生じると思う。随分前に京都協会と日本協会との関係を議論した際に、独自性を損なわないよう協力関係とすることにした。第 3 条にひっかかる。（亀海：役員）京都協会と日本協会の判断、処分のズレについて悩んできたが、フローチャートのように整理し、日本協会構成員については、調査から判断、処分の決定までを日本協会に委ね、その報告を京都協会の総会にはかることとした。

#### □第 8 号議案

【補足】組織運営、事業への会員の参加方法については、検討し報告するとのこと。

□「報告」2009 年度・2010 年度役員体制および会計監査について（2009 年度組織体制表当日配布）

4 期で退任する中瀬、姫野、月川から役員退任のあいさつがされた後、西村睦美新会長より第 5 期役員の担当部署、役職、そして会計監査 2 名が発表された。

#### □第 10 号議案

【補足】初任者研修について（上田支部担当役員・熊取谷初任者研修担当役員）

「日本協会生涯研修制度の流れ」（当日資料配布・日本協会の HP にも詳細掲載）

実践という課題を通して利用者の様々な福祉の課題に協働していかなければならない精神保健福祉士に求められる自己の研鑽と資質の向上について、日本協会は一定の水準を満たすべく組織的に取り組むこととし、生涯研修制度を 2008 年度より開始した。その基礎研修にあたるのが基幹研修 I であり、開催には都道府県協会の協力を必要とする、都道府県協会の会員には研鑽の機会として活用していただきたい。

「基幹研修 I を受託する経緯について」（当日配布資料 初任者研修の概要）

研修のあり方検討委員会で昨年議論を重ね、日本協会の推奨するプログラムをもちいることでより充実した研修の機会を会員に提供できるのではないかと結論に至った。また、受託開催するにあたっては、京都協会で実施してきた独自のプログラムを生かしてさらに充実する方法で考えている。テキストについては、日本協会指定のものを使用することになる。配布資料を参照しながら、プログラム案について説明する。お願いとして、参加費を 500 円から 1000 円に値上げする。京都協会会員のメリットとしては、テキスト代の一部を協会が補助する。開催時期は秋から冬頃に予定している。

【質疑】（野本：あゆみ舎） 基幹研修 I の受託に反対する。京都は京都でやるべきで、日本協会の倫理綱領も納得できないし、受託するなら退会する。「資料 9 京都府支部との関係について」に、「独自に活動していく部分を大切にしながら、日本協会と協働していける部分は協働していく」とある。日本協会との関係を検討したこの場に参加していたが、その際に協働できないこともあるといったことも確認した。日本協会の基

礎トレーニングを受けることで、考え方に影響をうけるのではないかと。日本協会が誤った方向にすすんだときに指摘する存在でありたい。基礎教育を共有することで独自の活動というものが難しくならないかと。日本協会がどんどん浸透していく感がある。

(西村：役員) 日本協会との関係は協力関係でイコールではないということに動いている。昨年研修について話し合ってきたが、日本協会が目指すところと京都協会が目指すところの理念とか本質に違いはないと認識しており、基礎の教育をしても違う方向にはいかないと考えている。日本協会の研修だけでなく、京都協会が積み重ねてきた独自のプログラムも大切にしていく。この研修を受けたことで間違った方向に進むとは考えないが、間違ったことが起こったときに声をあげることはひとりひとりとしても協会としても大切なこと、そういう力をもって協働できることは協働していくという形である。また、進めていくなかで改善していくことも大事なことでと考えており、研修の内容についてはこれからも意見をいただき良いものにしていきたい。そういうことを踏まえて執行部として提案しているし、ぜひ一緒に考えていただければと思う。

(質疑応答について) 途中、支部総会の開始時間を大幅に過ぎても審議が続き、話しあうことが大切なことは承知しているが、予定のあること、進行について検討していただきたいとの提案を受けた。役員から発言を希望する会員へ、状況を考えて要領よく述べるよう要請した。また、可決されたら退会せざるを得ないとの会員の発言に対して、このまますすんでしまうと一人の会員が退会することになる、それにはひっかかる。反対の理由をきかせてほしいとの意見があがり、説明するということがあった。

最後に会員から、提案は議論を経てほしい。また、総会には多くの会員が集まり議論のできるいい機会なので、講演を別の日に開催するとか、総会の開催方法を考えていただきたいとの意見があがった。

#### ○ 「意見」の扱いについて、など

事前に会員から提案された意見(当日配布)をもとに協会について話し合う予定であったが、運営の不手際から時間不足となってしまったことのお詫び、あらためて話しあう機会をもつことの了解がお願いされた。そして、支部総会はおおよそ1時間遅れで開催、記念講演は15分の遅れで開始することが西村会長から告げられた。

(報告作成 物)

〈お詫び〉

総会運営について、開始時間の遅れをはじめ、運営が滞りご迷惑をおかけいたしましたこと、申し訳ありませんでした。今後、より良い総会運営に努めていきたいと思えます。

(役員一同)

敬称は略させていただきました。

#### 【議案書の誤字訂正】

p.11 正) 京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構賛助会費 誤) 第三者評価費用  
正) 事務局整備積立金 誤) 事務費

p.18 正) 協会設立10周年記念誌編集委員会 誤) 協会10年史編集委員会

p.34 正) 第16条(規程違反等) 誤) 第16条(規定違反等)

申し訳ありません。お手数をおかけしますが、上記を訂正いただくようお願いいたします。

### 【記念講演会報告】

|     |                                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| テーマ | 「わたしたちの専門性とは ～かかわりの中からみえてくるもの～」                                          |
| 講師  | 田村 綾子 氏<br>(社団法人日本精神保健福祉士協会 常任理事)<br>(日立製作所神奈川工場健康管理センター 精神保健福祉士 他大学講師等) |
| 会場  | 京都市飲業館 みやこめっせ 大会議室                                                       |
| 参加者 | 110 名                                                                    |

今回の総会記念講演会では、田村綾子氏をお迎えし、改めて精神保健福祉士の専門性や価値について考察する時間を持ちました。精神保健福祉士の価値は、わたしたちの誰もが常に問い直し、考え続けるべきことです。そして社会の動きや自分の立場が変わっても、専門職であり続けるために揺るがない信念を持つことが必要です。しかし、それを実践の中であらわすこと、説得力をもったことばで相手に伝えることは簡単なことではないと、わたしたち誰もが感じていることではないでしょうか。田村氏は単科病院で勤務した体験の中から、地域移行支援事業や権利擁護についていくつかのエピソードを紹介されました。「社会的入院は人権侵害だ」と主張し、行動していくために、「なぜ悪いことなのか」「なぜ解消すべきものなのか」を考え続けていくこと、そして自らのことばで語ることが精神保健福祉士一人ひとりに課せられた使命であると、語られました。そして、「自分の仕事のありようが精神保健福祉士のありようとして周囲の人に理解される」ということや「かかわるということは、その人に影響を与えるということ」を自覚し、覚悟をもって行動しなくてはならない」との言葉に改めて身の引き締まる思いを持ちました。田村氏のさまざまな熱意に満ちた言葉によって、一人ひとりが、仕事をはじめたときの原点や自身の原動力について、あらためて思い起こす時間となったのではないのでしょうか。

また、専門職の責務のひとつとして、生涯にわたり研鑽を継続することが必要であり、そのためのしくみとして日本精神保健福祉士協会の生涯研修制度についても簡単に紹介されました。精神保健福祉士が国家資格化されてから 10 年が過ぎました。その間に、社会はさまざまな変遷をたどり、新たな法律や制度が作られ、当事者の生活にも大小の影響がおよびました。わたしたちは、そういった状況の中で日々当事者によりそい、権利を擁護し、生活支援を展開してきました。時には迷ったり悩んだり揺れたりしながら、揺るがない価値・アイデンティティを自分の中にしっかりと据えて、目の前の当事者とともに答えを見出していければいい。田村さんのお話からは、そんなメッセージを受け取ることができたように思います。

(記念講演担当／小野 紀代子・西村 睦美)

### 【記念講演会感想】

共同作業所サリュ 北村麻衣さん

「精神保健福祉士としての仕事をしているのだろうか、そもそも精神保健福祉士の仕事って何」と、日常の業務の忙しさからふと我に返ったときに頭に浮かんでは、また業務に追われる日々に戻る。作業所職員として働いてこの 4 年間、その繰り返しをしてきたように感じます。上の疑問に対する田村先生の答えは「さまざまな期待に応えながら、その仕事に精神保健福祉士としての仕事の意義を見出していく」だったように思います。精神保健福祉士としての価値を考えるヒントとしては「職場での役割や立場が変わることで変わっても、変わらずに大切にしていることを考える」とのことでした。

そこで私も考えてみました。私が勤めてからずっと大事にしていることは、利用者さん

に暮らしを楽しんでもえるように共に歩むということです。「私なんて何にもできないから」と挑戦する意欲がなかった利用者さんに「失敗してもいいからやってみたら」と声かけすると、案外すんなりできることがあります。そして、「できないんじゃないくて、やってみたらできることもある」と気がついて、次は違うことに挑戦したいと思う。すると作業を覚えるのが楽しくなってくる。できることが増えると、段々と自信がついてくる。仕事、つまり役割をもつとほとんどの人は生き生きします。ほんの小さなことの積み重ねが暮らしに楽しみをもたらすのだと思います。作業所は生活の一場面でしかありませんが、潜在していた力を余すことなく発揮できたり、新たに力をつけて挑戦できる場所として機能させていきたいと考えています。そのために、もう一度今の利用者さんにじっくりかかわってみよう、今回の講演後はそんな気持ちになりました。

高木神経科医院 小松原 宏美さん

「わたしたちの専門性とは」というテーマで田村さんからご講演いただいたことの中で、私が特に印象に残ったのは「自分の言葉で説明することが大事」と言われたことでした。

正解などないソーシャルワーカーとしての仕事の中で迷って揺れるのは当然のこと、だから常にふり返って自分に問い直し、ゆらぎ続けることが大切であると田村さんは言われました。しかしそれと同時に、「①精神保健福祉士としての価値に基づくこと」・「②個人としての自分がやりたいこと」・「③組織や周囲からの要請（期待される仕事）」の3つがせめぎ合う中で、自分は今どの軸に基盤を置いて「かかわり」をおこなっているのかを整理して自覚すること、そしてそれを相手（目の前にいる、かかわっているその人）や周囲（職場の他職種、他機関の人、市民など）に対して「自分の言葉で説明することが大切だ」と田村さんはおっしゃいました。それこそが、相手に対して自分の責任を果たすということ、言い換えれば専門職としての責任を果たすということなのではないか、と。

疑問を持ちながら、迷い揺れながらであっても、自分が今していることについてはきちんと引き受け、自分の言葉で表現して伝える。そのためには覚悟が必要であり、自信（ここで田村さんが言われた「自信」とは、自分を信じることを選ぶ、その強さを持つこと、と私は捉えました）も必要だと思う、と田村さんは言われました。

ふり返ってみれば、私は毎日の仕事の中で、迷いと不安に吞み込まれそうになっていたように感じます。それは、迷うことは当たり前ののだと、迷うことに逃げているという側面もあったのではないかと、田村さんのお話を聞いて気づきました。「ただ迷いや不安ばかり抱えて仕事をしていくのは、自分自身がきついただけではなく、かかわっている相手に対して無責任なのではないか」という田村さんの言葉は、まさに今の私の「迷い逃げ」や甘さを衝かれた感じがしました。

こうすればうまくいく！という近道や特効薬などないのでしょう。本当にごく少しずつであっても、当たり前に見えることを自分の言葉でとらえ直し、自分の言葉で伝える努力を、一日一日の仕事の中で積み重ねていきたいと、心から感じました。

#### 【2009年度第2回役員会報告】

日時) 2009年6月20日(土) 13:30~17:15

場所) 京都キャンパスプラザ京都第1会議室

出席) 上田 梅崎 大塚 岡島 小野 亀海(遅刻) 木下 熊取谷 下村 知名 西村  
前田 松田 物 吉田 渡辺

欠席) 斉藤 佐藤

進行) 大塚 報告書作成) 大塚

■第9回総会・記念講演会振り返り

□受付について：総会開始前後の入場者がおおく、開始時間に影響してしまった。結果的には適度な広さであったがもう少し広めの会場が余裕があつてほしかった。(京都市内では150名程度の会場が少ない。)

□運営について：開始時間や時間配分など時間管理に課題が残った。また総会開始後の参加人数の変化をわかりやすく伝えることが必要。質疑や意見交換のやり方について工夫が必要。議論の時間をとるために総会のみで開催をしてはという意見については消極的意見が多かった。

「労働実態調査の結果報告」について、その活用、報告方法（報告会開催か報告書配布）を検討する。

「意見のこと」：当日会員から提案され、すべての審議終了後に意見交換する予定であった「意見」については、9月例会の枠を利用して「意見をうけて協会のあり方等について考える会」を企画することに。企画運営担当については、研修部を中心に運営チームを作つてとりかかる。

□ 記念講演会について（アンケート結果配布）

テーマ設定・時間など、よかったのではないかな。質疑が消極的でもっとでもよかった。アンケートは約60名から回答が得られ、概ね好評を得た。日頃意識していなかった点を振り返ることが出来た、聴いて楽になれた、色々考えるきっかけを頂いたなどの意見があった。

■事務局から

□会計より、役員の旅費や、立て替え分の清算について指導があつた。

□入会審査について

①新入会審査：1名の申請が承認された。会員数324名となった。

②再入会審査について：規約改正にともなう、除名処分者の再入会に対して、審査の方法について検討していくこととなった。

□倫理委員へ、委嘱状を事務局よりお送りすることが報告された。

■対外関係

「京都介護福祉士会総会」6月13日（土）開催、出席 渡辺

「一般社団法人 京都精神保健福祉協会」6月20日（土）開催 出席 前会長中瀬  
今年度から理事として中瀬さんに交代して三役会にて西村会長を選出したことの報告。）

「京都精神障害者施設協議会総会」6月21日（日）開催予定 知名さん出席予定

「京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構」6月30日（火）開催予定 亀海さん出席予定

「障害者権利条約の批准と完全実施を求める京都フォーラム」第3回実行委員会 欠席

「京都くらしの安心・安全ネットワーク」総会 6月18日（木） 欠席

□「京都ウエルジョブネット（仮称）」（「介護・福祉サービス人材確保プラン」）

参画依頼が京都府よりあり、三役で検討、参画することとした。担当 亀海

第1回会議（6月23日）は亀海さんの都合がつかず、西村会長が出席する予定。

□京都市精神保健福祉審議会 委員に中瀬慶子さん選出、任期は3年間、委員会開催は年一回程度

- 精神保健参与員候補者推薦について：京都府支部より精神保健参与員の登録についての情報提供があり、支部構成員である会員にメールにて情報提供を行った。
- 後援名義使用依頼：「第 29 回近畿作業療学会」テーマ：当事者主役にきいてみよう  
開催 11 月 8 日（日）、会場 京都テルサ →了承した
- 会長変更の関係機関への連絡について、機会があるときにお伝えする。事務局変更の連絡は、3 月末に済ませた。

## ■受託事業

- 第 10 回精神保健福祉士全国統一模擬試験、開催日等決定の報告  
開催日 10 月 10 日（土）、会場「こどもみらい館」、定員 54 名、日本協会へ開催連絡票を物さんが提出。  
大阪と開催日が重ならないよう設定した、会場は昨年と同様、試験監督を今後募りたい。  
案内は、会員へメール配信、学校関係機関に郵送、日本協会の HP にも掲載案内がでる。
- 基幹研修 I  
委託契約書等の文書を 6/30（火）までに、日本協会へ送付する予定、文書作成は亀海さん担当。7 月初旬に委員で集まり、役割等を決める予定。

## ■各部から

### □通信情報部

通信：72 号～78 号の発行予定が発表された。例会開催日との兼合いがあり決定ではないとのこと。

HP：ファーストサーバーの契約者名義の変更について説明された。会員配信の状況については前事務局長の物さんから説明がされた。会員 HP 掲示板・HP から入会申込みが可能なシステム導入についての提案が承認され、進めていくこととなった。通信情報部と事務局長とでメール配信およびHP原稿についてのシステムを検討、通信情報部と事務局とのそれぞれの業務マニュアルを調整し、修正していくことが確認された。

### □権利擁護委員会

成年後見制度についての学習会を 6 月 30 日に予定、現在、申込み者 10 名程度。  
「高齢者障害者ケース検討会」（6 月 17 日）に 3 名が参加、保田さんが話題提供をした。

### □障害者自立支援法委員会

6 月 8 日開催、京都市との懇談会の報告された。出席：京都市障害保健福祉課 課長・課長補佐・担当係長・担当者、当協会 知名・月川、ほか 3 団体は、京都ユーザーネットワーク・京都精神保健福祉推進家族会連合会・京都精神保健福祉施設協議会。  
京都市から、今年度の障害保健福祉関連の予算の説明の後、昨年、11 月 5 団体が提出していた「障害者自立支援法の抜本的見直しにかかる要望についておねがい」への回答がされた。また、さらに各団体から厳しい現状からの訴えと要望を行った。ユーザーネットワークから、支援センターで相談支援を受けたいが、法によって事務処理が増加し、相談員がパソコンの前に張り付いている。その環境の改善を望むと市へ要望があがった。  
・「事業計画」「10 月例会（案）」が提出された。

### □実習検討委員会

精神保健福祉士法改正に伴うカリキュラムや実習に求められるものの情報把握につとめる。

□倫理について考える委員会

冊子「実践につなげるソーシャルワーカーの倫理～事例をとおして～」は第3章を書き直し、今年度中に発行する予定と報告された。

月一回委員会を開催すること、12月例会を担当する予定であることが報告された。

□心神喪失者等医療観察法学習会

学習会を月1回実施、昨年の例会アンケートを基に話し合っていることが報告された。

□研修部（初任者研修資料配布）

例会：7月例会「先輩の実践から学ぶ」準備中であること、持ち込み企画のルールを整備する必要がある。企画書のひな型があれば提出しやすいと思われるので、作成していくことが報告された。

初任者研修：基幹研修Ⅰを受託し、統合プログラムを企画。6/30締め切りの企画書・予算書・事業計画を日本協会へ提出する予定で進めている。開催は、1月を予定しているとのこと。

□京都府支部担当

日本協会の全国大会および総会が静岡で開催された。その報告会の開催について検討している。

■会長から役員へ

役員として知りえた情報の取り扱いに対して責任をもつこと、対外活動に際しては協会の代表として活動するという意識をもつことなど心がけてほしい。また組織体制を理解した上で十分に活用し、各委員会の活動を共有できるよう報告・連絡・相談の徹底してほしい。

次回役員会は 8月22日13時30分～17時、会場は「京都市アバンティホール 会議室」

【リレー職場紹介】

園部共同作業所 杉山 俊夫

園部共同作業所は、国道9号線を観音峠へ向かって園部大橋を渡りすぐ右側にあります。普通の民家で大きな看板もあげてないので、前を通ってもわからず、どこですかと電話される人もおられます。開所当時、周辺は田んぼや畑ばかりでしたが、25年もたてばすっかり開発され、スーパーマーケットやコンビニ、パチンコ店、各医療関係など次々と建ち並び、利用者さんには大変便利になりました。現在、利用者25名、職員5名で電気部品の組み立て、紙箱折り、クッションの袋詰めなどの下請け作業をしております。最近の不況により作業量は減少し、長年コンスタントに入っていた仕事さえ止まることもあり、安定した作業の確保には苦慮しております。自主製品についてはステンドグラスを行っています。この作業種目を導入するには少し迷いました。なにしろ大変な根気と手先の器用さ、色彩のセンスが要求されるのでこれがストレスになって、眠れなかったり調子を崩したら・・・と心配したのですが取り越し苦労でした。専門家の技術指導のおかげで、今ではプロも驚くほど立派な作品が出来るようになりました。作業所より徒歩3分の所にグループホームつぼみがあり、これも運営しています。定員5名、世話人4名で地域にとけこみ生活者のQOLの向上に向けサービス援助をおこなっています。これからも利用者のより良い生活を目指して精神保健福祉の実践を職員ともども推し進めていきたいと思っています。

### 【研究研修部からのお知らせ】

#### 2009 年度例会・研修会の予定

##### 2009 年

10 月 障害者自立支援法委員会企画

11 月 医療観察法学習会企画

12 月 倫理について考える委員会企画

##### 2010 年

1 月 初任者研修 (3 日間)

2 月 権利擁護委員会企画

3 月 持ち込み企画

※ 日時は、原則第一土曜日の午後 2 時から 5 時ですが、諸事情により前後することがあります。会場・講師についても準備・調整中ですので、詳細が決まり次第お知らせします。

### 【事務局からのお知らせ】

#### □ 第 10 回精神保健福祉士全国統一模擬試験「京都会場」開催のお知らせ

開催日 2009 年 10 月 10 日 (土)

会 場 京都市子育て総合支援センター「こどもみらい館」

開催案内ができしだい、会員の皆さまへメールにてお知らせをいたします。お近くの受験生の方々へご案内いただくようお願いいたします。

また、今年度から、日本精神保健福祉士協会のホームページから受験の申し込みができるようになりました。詳細はホームページをご覧ください。

\*この事業は、日本精神保健福祉士協会からの委託事業です。受験料の一部が当協会の収入となります。

#### □ 会員名簿について

2009 年度会員名簿を郵送にてお送りいたします。お手元に届きましたら、記載内容に誤りがないかご自身の欄をご確認ください。誤りやお気づきのことなどありましたら、事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

また、会員名簿の後方に、「変更届」「退会願」を添付しています。お届けの事項に変更が生じた場合は、コピーしてご利用ください。変更のご連絡は、必ず「変更届」を事務局へ FAX にてお送りください。会費納入時の振り込み用紙への記載は、事務局へ届かないことがあります。ご協力いただきますようお願いいたします。

#### □ 会費納入のおねがい

2009 年度会費 (郵送利用の方は郵送負担料 1000 円) のお納めがまだの方は、至急にお納め頂くようお願いいたします。会費を 2 年滞納されますと退会となってしまいます。協会は会費によって運営されています。早い時期の会費納入にご協力いただきますようお願いいたします。

郵便振替口座 00960-7-120392 京都精神保健福祉士協会

## 会員の動向

### 〔変更〕

|                    |                                                                       |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 家原 敏彰さん            | 京都府 中丹東保健所 (旧所属：丹後保健所)                                                |
| 石田 早苗さん            | 長岡病院 医療社会事業部<br>(旧所属：生活訓練施設 アスロード)                                    |
| 柏木 直子さん            | 財団法人長岡記念財団 長岡病院 医療社会事業部<br>(旧所属：生活訓練施設 アスロード)                         |
| 渋谷 可奈美さん           | 財団法人長岡記念財団 通所授産施設 カメリア<br>(旧所属：長岡記念財団グループ株式会社エヌ・ケー・ゼット・サービス ベーカリー事業部) |
| 白濱 智美さん            | 医療法人三幸会 就労支援センター ヒューマンプラス<br>(旧所属：第二北山病院)                             |
| 高木 理恵さん            | 社会福祉法人信和福祉会 圭の家 (旧所属：圭の家 分所)                                          |
| 田村 真梨さん            | 財団法人長岡記念財団 長岡病院 医療社会事業部<br>(旧所属：通所授産施設 カメリア)                          |
| 日置 周平さん            | 医療法人栄仁会<br>けあほうむびあ・ぐるうぷほーむのあ・グループホームみむろど<br>(旧所属：ふくしほうむ ぴあ)           |
| 平田 千里さん            | 京都第二赤十字病院 医療社会事業部<br>(旧所属：第二赤十字病院 地域医療連携課)                            |
| 中西 恵子さん            | 障害者生活相談センター 結 与謝野町出張所<br>(旧所属：峰山協同作業所)                                |
| 泉水 宏仁さん            | 地域生活支援センター 歩っと<br>(旧所属：医療法人社団 瀬尾医院)                                   |
| 中瀬 慶子さん            | 京都精神保健福祉協会<br>(旧所属：京都市西部精神障害者 地域生活支援センター 西京)                          |
| 青木 保子さん            | (社) 京都光彩の会 京都市朱雀工房<br>(旧所属：佛教大学 福祉教育開発センター)                           |
| 今井 真美さん            | 京都医療少年院<br>(旧所属：なし)                                                   |
| 大磯 さとみさん           | ハローワーク 京都七条 京都障害者職業相談室<br>(旧所属：社会福祉法人 ねっこの郷 福祉会)                      |
| 川野 栄子さん            | 三幸会 第二北山病院 生活サポートセンター<br>(旧所属：三幸会 うずまさクリニック デイケア)                     |
| 安西 桂子さん<br>(旧姓：外賀) | 特定非営利法人乙訓やよい福祉会 やよい工房<br>(旧所属：亀岡市役所)                                  |
| 加藤 直人さん            | 大阪障害者職業センター リワークアシスタント<br>(旧所属：京都光彩の会)                                |
| 内田 依子さん            | 長岡記念財団しょうがい者職業・生活支援センター アイリス<br>(旧所属：地域活動支援センター アンサンブル)               |
| 宮本 麻紀さん            | (退職：瀬尾医院)                                                             |

|          |                  |
|----------|------------------|
| 山下 理恵子さん | (退職：つかさき医院)      |
| 中村 有里さん  | (退職：北山通りソウクリニック) |
| 服部 小書さん  | (改姓：旧姓 西脇)       |
| 河村 理恵さん  | (改姓：旧姓 高木)       |

[入会]

|          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 池田 和子さん  | 京都生活協同組合 福祉事業部中京事業所                 |
| 今井 利華さん  | NPO 法人 PRP きょうと きょうと WAKUWAKU 座     |
| 入江 哲弘さん  | 亀岡市健康福祉部障害福祉課地域生活支援係                |
| 太田 智之さん  | 医療法人三幸会 就労支援センター ヒューマンプラス           |
| 小澤 朋子さん  | 京都福祉サービス協会京都市小川地域包括支援センター           |
| 笠松 茜さん   | 医療法人栄仁会 けあほうむびあ                     |
| 片岡 亮介さん  | 財団法人 川越病院 医療福祉相談室                   |
| 門田 智子さん  | 社団法人 長岡京市社会福祉協議会 地域福祉係              |
| 川内 由賀さん  | 花園大学大学院                             |
| 河原 きよ子さん | 特定非営利法人きぼうの会 居宅介護支援事業所              |
| 清水 友希さん  | 医療法人三幸会 就労支援センター ヒューマンプラス           |
| 関谷 豊美さん  | 明和会 琵琶湖病院 心理・相談室                    |
| 谷 史子さん   | 京都市こころの健康増進センター デイ・ケア課              |
| 津田 みづきさん | NPO 法人 Salut 共同作業所 サリュ              |
| 藤原 英一さん  | 医療法人栄仁会 宇治おうばく病院 地域連携室              |
| 松村 千春さん  | 特定非営利活動法人プラッツ 共同作業所ヒュッテ<br>・おーふんせさみ |
| 望月 梓さん   | 医療法人栄仁会 宇治おうばく病院 地域連携室              |
| 八木 奈那子さん | 京都市こころの健康増進センター 相談援助課               |
| 今村 将貴さん  | 医療法人健心会五十嵐心のクリニック デイケアリサーチ          |
| 田上 嘉之さん  | 社会福祉法人光彩の会グループホーム光                  |

\* 連絡先は会員名簿をご覧ください。

[退会]

|         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 北川 恵さん  | 京都市 上京区役所                     |
| 佐藤 公子さん | 特定非営利活動法人 乙訓やよい福祉会 グループホーム かな |
| 高谷 恵子さん | 社会福祉法人すてっぷす 地域生活支援センターなっつ     |
| 辰巳 麻希さん | 京都西陣公共職業安定所 伏見公共職業安定所         |
| 松本 博子さん | 京都市伏見区役所 福祉部支援課               |
| 山田 晴美さん | 京都市伏見区役所                      |
| 福間 奈美さん | 宇治おうばく病院 外来地域管理室              |

[会員数] 2009 年度 7 月 3 1 日現在 326 名

## ほっと一息 暑い日こそ本を読もう

初めまして。寫田裕子です。先日、縁あって「認定看護師」講座のファシリテーター助手として講習に参加してきました。専門性を高めるために勉強に励んでおられる看護師さん達の熱意に触れたことで、私も早く日本精神保健福祉士協会の基幹研修を受けたいなあという気持ちになりました！

### ☆おススメの本紹介☆

江藤文夫訳 2008 高次脳機能検査法 原著第4版—失行・失認・失語の本態と診断—  
医歯薬出版株式会社 (原著第1版は1981年発行)

最近テレビ番組で「高次脳機能障害」について取り上げられることが多いですね。高次脳機能とは記憶や計算、言葉や視覚などと密接に関係している領域です。

我々が対象としている方の中にも高齢の方が増えてきているので、病院でMMSEや長谷川式といった検査を受けた体験がある方も多いのではないのでしょうか。

この本は専門書なので内容はとっても難しいのですが、もしかしたら読むことで認知症や脳腫瘍といった、脳の病変の兆しを見つけることができるかもしれませんね。

私も最初のうちは必要に迫られて読んでいたのですが、読み進めるうちに脳に興味を持つようになりました(\*^\_^\*)

中村ユキ 2008 わが家の母はビョーキです サンマーク出版  
細川貂々 2006 ツレがうつになりまして。 幻冬舎  
細川貂々 2009 その後のツレがうつになりまして 幻冬舎文庫

当事者や家族の視点から書かれた本です。まだ読んでいない方はとにかく読んでみてください☆

文責 NPO 法人プラッツ 共同作業所「ヒュッテ」寫田裕子

### 【編集後記】

今号は新メンバーの通信委員でお届けする初めての「きょうと通信」となりました。

今回初めて編集作業に携わり、本当に多くの方の力があってこの通信が成り立っていることを知りました。(寫田裕子)

夏本番をむかえました。みなさんはどんな夏を過ごされますか？素敵な夏の思い出話ができると良いですね。(内藤裕美)